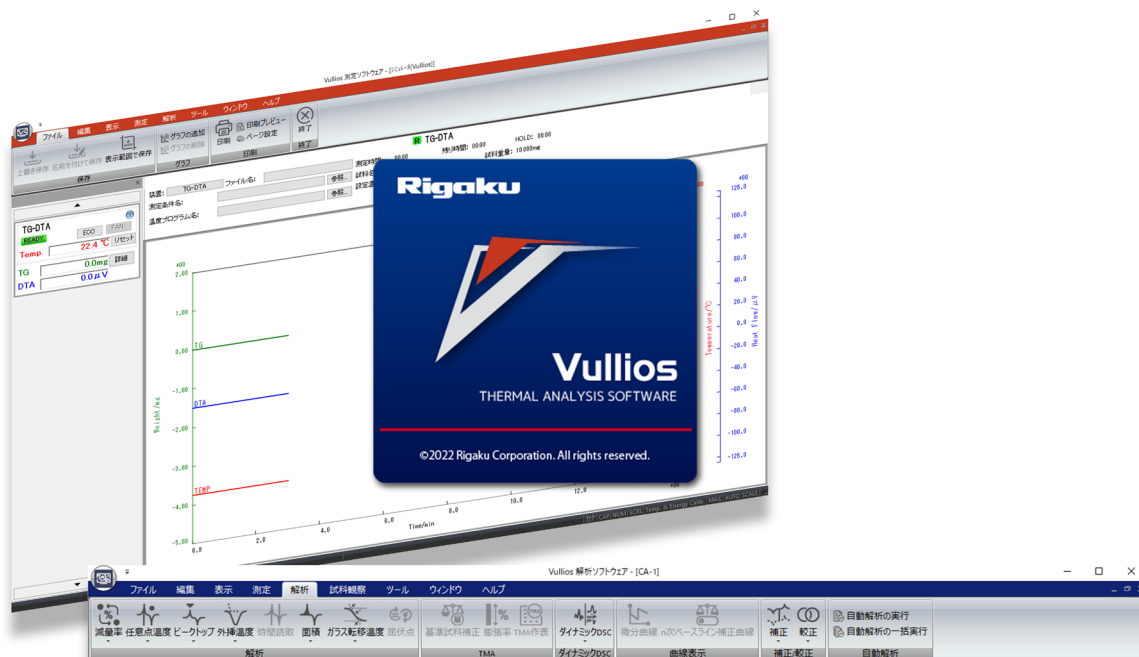


# 新しいデザインで一新された 熱分析測定・解析ソフトウェア

## —Vullios®—



### 1. はじめに

測定・解析ソフトウェアは、分析装置を使用するうえで最もユーザーに近い存在であり、その操作性の良し悪しは目的達成の効率にも影響を与えます。リガクでは、より良い操作性とさらなる機能向上を追求した新測定・解析ソフトウェア「Vullios」を発売しました。

### 2. デザイン

#### 2.1. ランチャー管理

Vullios Lancherを起動すると、熱分析に必要なソフトウェアが一覧画面に表示されます。これにより、デスクトップ上に散らばったショートカットアイコンを探すことなく、ソフトウェアを起動することができます。

#### 2.2. リボンメニューによる選択

Vulliosでは新たにリボンメニューを採用しました。リボンメニューはマイクロソフト社製品の「Microsoft Office®」で使われており、普段から慣れ親しんでいるユーザーインターフェイスを採用することで初めて触れる方でもわかりやすく操作できます。



図1. Vullios Lancher.

リボンメニューの配置や並び順は、従来のソフトウェア Thermoplus EVO2™ と同じ配列にしています。このため Thermoplus EVO2 をご使用の方でも、迷わずに目的のメニューを選択することができます。



図2. リボンメニュー。

### 3. 測定画面

#### 3.1. 測定メソッド

測定条件、温度プログラム、試料観察条件を一つの測定メソッドファイルとして管理できるようになりました。品質管理など、同じシリーズの試料測定において同じ測定条件を繰り返し使用する際には、測定メソッドファイルと呼び出すことで同じ測定が可能となります。

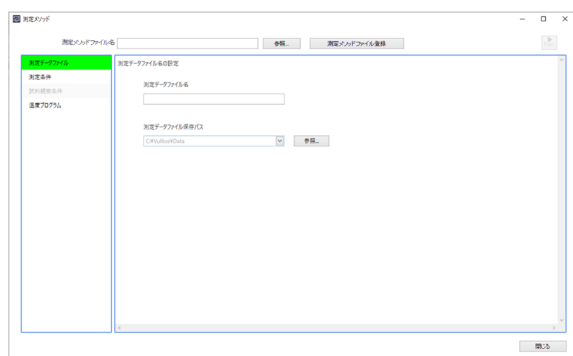


図3. 測定メソッド画面。

#### 3.2. オートサンプルチェンジャー設定画面

Vulliosでは、オートサンプルチェンジャー設定においてトレイに置いた試料の測定順番は、自由に選択できるようになります。これにより測定順に試料をトレイに並べる必要はなく、空いているトレイに試料を置き、測定順番を設定画面で指定できます(図4の設定画面ではトレイ番号1→3→8→1→5の順で測定するように設定しています)。同じトレイ番号を指定することで同じ試料を再昇温することができ、再昇温の測定では最初の温度プログラムと異なる温度プログラムで測定することが可能です。また、測定試料点数が多い場合は、測定が終了した試料から新しい試料に入れ替えて測定を加えることで、最大で1000連続測定を行うことが可能となります。

連続測定

校正ファイル作成

容量管理

測定順番

測定試験のトレーNo.

| No. | 測定                                  | 状態 | S.No. | R.No. | 試料交換温度    | ファイル名    | 試料名 | 試料重量      |
|-----|-------------------------------------|----|-------|-------|-----------|----------|-----|-----------|
| 1   | <input checked="" type="checkbox"/> |    | 1     | 1     | ~ 40.0 °C | TEST-1   | A   | 10.000 mg |
| 2   | <input checked="" type="checkbox"/> |    | 3     | 1     | ~ 40.0 °C | TEST-3   | B   | 10.000 mg |
| 3   | <input checked="" type="checkbox"/> |    | 8     | 3     | ~ 40.0 °C | TEST-8   | C   | 10.000 mg |
| 4   | <input checked="" type="checkbox"/> |    | 1     | 1     | ~ 40.0 °C | TEST-1-2 | D   | 10.000 mg |
| 5   | <input checked="" type="checkbox"/> |    | 5     | 2     | ~ 40.0 °C | TEST-5   | E   | 10.000 mg |

基準試料のトレーNo.

図4. オートサンプルチェンジャー設定画面。

### 4. 解析画面

#### 4.1. マウススクロールでの拡大・縮小

軸や曲線をクリックすることで、カーソル位置を中心としたグラフの拡大、縮小がマウススクロールを使って可能となります。カーソルの位置によって選択した曲線の軸のみや、縦軸と横軸両方の変更と使い分けることも可能です。

#### 4.2. 自動解析

解析項目や解析範囲などを指定した自動解析条件ファイル(図5)を作成しておくことで、測定データの自動解析が可能です。自動解析の実行は以下の3種類の方法を用意しています。

- ①測定メソッドにて自動解析条件ファイルを設定し、測定終了時に自動的に自動解析を実行する。
- ②解析画面上の測定データについて自動解析を実行する。
- ③選択した複数の測定データについてまとめて自動解析を実行する。

また自動解析結果の出力に関しても、紙への印刷やExcel®への出力などの選択が可能です。測定結果の解析において解析項目と温度範囲が決まっている場合は、自動解析を設定することで大幅な業務効率アップが見込まれます。

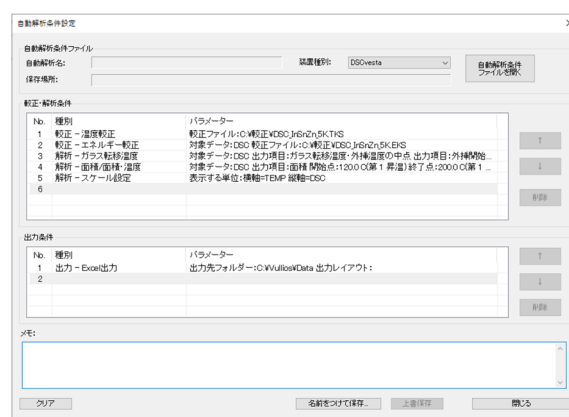


図5. 自動解析条件設定画面。

### 5. まとめ

Vulliosではデザインを一新し、新しい操作性でより直観的な測定、解析が行えるようなユーザーインターフェイスを備えています。また、操作ボタンの配置などはThermoplus EVO2のメニューバーの配置を踏襲しているため、Thermoplus EVO2ユーザーも直観的に使用いただけます。

機能面ではオートサンプルチェンジャーの機能向上、マウススクロールでグラフの拡大、縮小ができる新機能の実装、自動解析機能などユーザーから多く要望を頂いた機能を中心に実装いたしました。なお、今後もさらなる機能の追加を行う予定となっています。

Thermoplus EVO2シリーズの熱分析装置(制御PCはwindows10)を使用しているユーザーは、Vulliosのみを購入することで、これら新しい操作性と新機能をご使用いただくことが可能です。

VulliosとThermoplus EVO2は、株式会社リガクおよびその関係会社の日本およびその他の国・地域における商標または登録商標です。

Microsoft OfficeとExcelは、マイクロソフトグループ企業の日本およびその他の国・地域における商標または登録商標です。